
ひとり五枚会

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとり五枚会

【Nコード】

N49050

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

執筆条件。五枚完結。二週間に一本以上書く。2011年3月に終了。

はじめに

執筆条件

- ・五枚完結。
- ・二週間に一本書く。
- ・2011年3月に終了。

文字数が足りないので、詩を載せておこう。

ひとり五枚会のテーマ

五枚でいろいろ広がる小さな宇宙
オレたちはちっぽけだけど

無限の想像力があるぜ

縦横無尽に神出鬼没

変幻自在に焼肉定食

オレたちはどこまでもどこまでも飛んでいく
職場では冴えないおっさんだけど
学校ではつまらないガキだけど

この五枚の世界では

オレたちはヒーローだ

苦痛も憂鬱も疲弊もぶっ飛ばして
オレたちはオレたちの世界を構築するぜ

それがひとり五枚会

暗闇なんかぶっ飛ばす

ひとり五枚会の前に敵はなし
もちろん味方もなし

一人一人が

己の力で進むのだ

長い孤独の旅

草木なんて生えてやしねえ

でも心には夢

果てしない激しくて優しい夢が広がる

それがひとり五枚会

明日晴れたら釣りだ

フタのフーさん(1)(前書き)

沢木先生のわる子ちゃんに似とるな……。

ブタのブーさん(1)

はじめに

無言ダンテ先生主催「創作五枚会」を参考に、第一話は、テーマ「人形」、主人公の「」によるセリフの禁止とします。

ブタのブーさん。アメリカのアニメ会社ピズニーの人形キャラクター。太ったボディと憎々しい瞳が魅力のおでぶキャラだ。

女子小学生、美代子ちゃんも大ファンである。DVDも絵本もあるし下敷きもある。

もちろん、部屋にはぬいぐるみもある。

毎日いっしょに寝ている。

「ブーさん。寝ましょ」

まあそれは別に構わないのだが、たまたま、本当にたまたまなのだが、そのブーさんのぬいぐるみ、設定年齢が28歳で、しかも口リコンだったのだ。

毎晩、美代子ちゃんに抱きつかれるので、正直、苦しくて苦しくてたまらない。

ブーさんの股間はぬいぐるみであるにも関わらず、みるみる膨らむ。変な汗も出る。

「ぐーぐーぐー」

美代子ちゃんがぐつすり眠ってブーさんを離れたところでブーさんはベッドから飛び降りる。そして、美代子ちゃんの寝顔を見ながら、(ピーー)をする。したあと、美代子ちゃんの顔をティッシュで拭き、またベッドに戻り美代子ちゃんと寝る。

もちろん、ティッシュはゴミ箱でなく、便器に捨てて流す。美代子ちゃんが怪しむといけないからね。

まあそんなブーさん。あるとき、えらいことになってしまった。

「いいなあ。美代子ちゃん。ボクもブーさんほしいなあ」

「あげるよ。あたし、新しいブーさん買っから」

「ほんと？ありがとう！」

何とブーさんは、美代子ちゃんの同級生たけしくんにもらわれることになったのだ。

ブーさんはたけしくんの部屋に来てからうんざりしてる。何で男といっしょに暮らさないといかんねん。

しかし、ブーさんは甘かった。たけしくんがブーさんをもらった理由は美代子ちゃんのようにいっしょに寝ることではなかった。

たけしくんはチビでやせでどちらかというと、いじめられっ子タイプである。

学校でいじめられると、決まって自分の部屋で怒り狂い、ブーさんを殴る蹴る放り投げるなどしてストレス発散するのだ。

そうすると、たけしくんはぐっすり眠られる。

しかし、ブーさんは悔しいし痛いし涙が止まらない。

やるせなくて、窓を開け、二階から飛び降り、屋台へ向かった。そこで朝まで飲む。

「ブーちゃん。およしよ。身体に悪いよ」

大将に言われてもブーさんは日本酒を次々と飲む。飲まなきゃやってられねえ。

そして、べろんべろんになり、たけしくんが起きる前に、たけしくんの家に帰り、庭の木をよじ登って、ベランダに飛び降り窓を開け、所定の位置に待機する。

たけしくんは目覚めるといきなりブーさんの腹をパンチする。

「かっかっか。爽快！」

ブーさんは涙が出てくる。このくそガキめ、と思う。

ひとり五枚会「反復」

【条件】

? 2000字前後。

? 反復文体を用いる。

? ギャグであること。

? テーマは、葛藤。

小説には、文学性とエンタメ性がある。

もともとマンガや映画のない時代、小説は娯楽の王様であつたし、マンガや映画が誕生してからは、享受するのに集中力のいる難解な分野と位置づけられている。

昔は親に隠れて読むのが小説であり、今は親が読ませようとしてるのが小説というわけだ。

豆山豆介は、危険な小説を書く小説家であつた。大便を口から出すお尻くんというキャラがちびっこに人気だ。

しかし、ちびっこの親たちには不評だった。ちびっこ読者から「本が見つかり燃やされました」というレターももらった。

中には、「子供が活字を読むようになってうれしいです」というレターをもらうこともあったが、それは希だ。

もともと漫画や映画がない時代は、小説は娯楽の王様であつた。漫画や映画が誕生してからは、享受するのに集中力のいる難解な分野と位置づけられてるが、基本、娯楽である。

豆介は書斎で腕を組む。ビートルズや奥田民生を流している。豆介は作務衣を着て、タオルを頭に巻いて執筆してることが多い。書斎の本棚にはたくさん本がある。エロ本はベッドの下に隠してる。

「うつむ。お尻くん、人気あるけど、PTAから苦情が多くていやになるなあ」

誰にしゃべってるのかな。読者かな。

豆介の代表作「お尻くん」は危険な児童書であった。主人公のお尻くんは、大便を口から出すのだ。その他、珍子ちゃんや、きんたま大魔王なども危険なキャラクターだ。

映画「お尻くんのうんこ大戦争」が上映された時は、社会問題にまで発展した。

もともと漫画や映画がない時代は、小説は娯楽の帝王だった。漫画や映画が生まれてからは難解な表現媒体とされているが、評論に比べれば簡易ゆえに、基本は娯楽である。娯楽には危険性がつきまとう。自由奔放だから。

「でも書かなきゃいけない。ちびっこ読者を楽しませてストレスを軽減させてあげないと」

誰にしゃべってるのかな。読者かな。編集者かな。

豆介は、書いてるうちに疲れてきたので、ちよっと気分転換をしようと思った。

庭に出て竹刀を振る。

「なんくるないさ！ なんくるないさ！ なんくるないさ！」

豆介が「月刊児童文学界」に連載している「お尻くん」というギャグ小説は危険な児童小説であった。主人公のお尻くんは、大便を口から出すし、きんたま大魔王は、きんたまを広げて空を飛ぶ。まるでモモンガ。実に下劣、低俗。そこがちびっこに人気の秘訣だろう。お尻くんの彼女、珍子ちゃんは萌え萌えである。

映画「お尻くんのうんこ大戦争」が上映された時は、大問題になった。お尻くんが、通行人にうんこ爆弾を投げるのを、映画を観たちびっこが真似したのだ。

あの時、「お尻くん」追放運動が起こった。PTAは、「お尻くん」の単行本をちびっこから奪い、校庭で燃やした。「お尻くん」も一時休載となった。豆介は収入が途絶え、塾のアルバイトをして

いた。

しかし、ちびっこたちは「お尻くん」が大好きだった。だから、また、連載がスタートした。親もちびっこが憂鬱だといやなようである。単に、PTAがヒステリックなだけなのだ。

漫画や映画のない時代、小説は娯楽の王様であった。娯楽というのは危険である。江戸時代、エロ的な小説を書き、治安攪乱罪で逮捕された作家もいる。

しかし、映画や漫画が誕生してからは、享受するのに時間のかかる難解なジャンルとなった。

だから、昔は親に隠れて読むものであったが、今は、親が買って読ませるものになりつつある。

ゆえに「お尻くん」も何とか延命できている。もともと、親に完全に好かれる小説というのは、子供にとって魅力のない小説でもあるので、そのバランスが難しい。常に葛藤して書いている。

豆介は、いい汗を流し、書斎に戻り、スポドリを飲んだ。

「さあ書くか。今日じゅうに仕上げるぞ」

誰にしゃべってるのかな。読者のちびっこかな。スポンサーたる、ちびっこの親かな。

反省点

2000字いかなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4905o/>

ひとり五枚会

2011年10月9日19時02分発行